

今日の主の行動の方向

聖書：エペソ 4:12, 16. 啓 19:7-9. 22:17. ダニエル 2:34-35, 44-45. 啓 11:15

I. 今日の主の行動の方向は、神聖な三一において手順を経て分与する神の有機体としてのキリストの有機的なからだを建造して、彼を完全に表現することです——エペソ 3:19. 4:12, 16. ヨハネ 15:1, 5 :

A. 神のエコノミーにおける最高峰は、キリストのからだの実際です——エペソ 3:9. 4:4-6, 16 :

1. 神はご自身をわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちを神格においてではなく命と性質において彼であるのと同じにしつつあります。最終的に、わたしたちは団体の実体、すなわち、キリストのからだとなって、彼と一になり、彼を生きて、彼を団体的に表現します——ローマ 8:2, 6, 10-11, 29. エペソ 4:4-6。

2. キリストのからだの実際は、団体の、キリストを大きく表現する、神・人の生活です。この実際は、この時代、すなわち召会時代を終わらせ、キリストの再臨をもたらして、彼が王国時代にこの地を占有し、所有し、支配するようにします——ピリピ 1:19-21 前半. 3:10-14. ガラテヤ 2:20. 啓 19:7-9. 20:6. マタイ 28:20 後半。

B. キリストのからだは、召会の内在的な意義です。神の召会は枠組みであり、キリストのからだは有機体です——I コリント 1:2. 12:12-13, 27. ローマ 12:4-5. 16:1, 4-5。

C. キリストのからだは、三一の神とキリストにある信者たちとの神聖な構成です——エペソ 4:4-6 :

1. 父、子、霊、また人は、共にブレンディングされ建造されて、キリストのからだとなります。

2. キリストのからだは有機体であり、神と人の両方の性質を持っており、キリストを表現します——1:23。

D. からだの成長が、からだの建造です——4:16. コロサイ 2:19 :

1. からだの成長は、わたしたちの内側の神の増し加わり、神が加わること、神の増加にかかっています——19 節。

2. キリストのからだの成長は、召会の中でのキリストの増し加わりであり、その結果、からだは愛の中でそれ自身を建て上げるに至ります——エペソ 3:17 前半. 4:16 :

a. キリストが聖徒たちの中へと入り、彼らの内側で生きるとき、聖徒たちの内側のキリストは召会となります——コロサイ 3:10-11。

b. キリストのからだは、わたしたちの内側のキリストの増し加わりによって成長し、このように建て上げられます——1:18. 2:19 :

(1) キリストの中へと成長し込むとは、キリストにわたしたちの中で増し加わっていただき、ついにわたしたちが一人の完全に成長した人に到達することです——エペソ 4:13, 15。

(2) まず、わたしたちはかしらの中へと成長し込みます。次に、かしらから出てくる、からだを建造するためのものを持ちます—— 15-16 節。

c. からだがそれ自身を建て上げるための愛は、わたしたち自身の愛ではなく、キリストにある神の愛です。それは、わたしたちの中でキリストの愛となります。その愛によって、わたしたちはキリストと彼のからだの肢体仲間を愛します—— I ヨハネ 4:7-8, 11, 16, 19. ローマ 5:5. 8:39。

II. 今日の主の行動の方向は、花婿の配偶者としての花嫁の用意を整えて、贖う神と彼の贖われた人とを永遠に婚姻させることです——啓 19:7-8. 22:17. 21:1-2, 9-10 :

A. 小羊の婚姻は、神の新約エコノミーの完成の結果です。神の新約エコノミーとは、彼の法理的な贖いを通して、また彼の有機的な救いによって、キリストのために花嫁、すなわち、召会をめとることです——創 2:22. ローマ 5:10. 啓 19:7-9. 21:2, 9-11。

B. キリストの花嫁としての召会は、愛の中の満足と安息の事柄です——創 2:21-23. ゼパニヤ 3:17。

C. 主の回復は、すべての勝利者から成るキリストの花嫁の用意を整えるためです——啓 19:7-9 :

1. すべての勝利者は、千年の間、その開始と新鮮な段階において、キリストの花嫁としての新エルサレムとなります—— 7 節。

2. 最終的に、信者たちはみな勝利者たちに連なって、新天新地において、キリストの妻としての完全な新エルサレムを究極的に完成し、完全なものとし、永遠に至ります—— 21:2, 9-10。

D. 団体の花嫁の準備は、勝利者たちの命における円熟にかかっています—— 19:7. ヘブル 6:1. ピリピ 3:12-15. エペソ 4:13 :

1. 新約で、「円熟」という言葉は、信者たちが神の命において完全に成長し、完成されることを指すのに用いられています。これは、わたしたちが成長し、円熟し、神聖な命における完成に至る必要があることを示しています——マタイ 5:48。

2. わたしたちは継続して成長し、ついには神聖な命において円熟して、一人の完全に成長した人となり、キリストの身の丈の豊満の度量にまで到達する必要があります——エペソ 4:13。

E. 勝利者たちは、別々の個人ではなく、団体の花嫁です。このために、建造を必要とします——マタイ 16:18. エペソ 2:21-22. 4:15-16 :

1. 勝利者たちは命において円熟しているだけでなく、また共に建造されて一人の花嫁となります——啓 19:7-9. 21:2, 9-11。
2. 聖書の中心的で神聖な思想は、神が建造を求めておられ、それは神ご自身と人性とのミングリングであり、彼を永遠に団体的に表現するという事です——創 2:22-23. 啓 21:2, 9-11。

F. 花嫁として、召会は美しさを必要とします——エペソ 5:27. 雅 4:7-15 :

1. 花嫁の美しさは、花嫁を花婿にささげるためです——エペソ 5:27。
2. 花嫁の美しさは、召会の中へと造り込まれ、そして召会を通して表現されるキリストからきます—— 3:17 前半。

III. 今日の主の行動の方向は、神聖な命の拡大としての神の王国をもたらして、神に永遠の行政を得させるために、神の永遠のエコノミーを完成することで——ルカ 19:12, 15 前半. ダニエル 2:34-35, 44-45. 啓 11:15 :

A. 神の王国とは、命の種としてのキリストご自身であり、彼はわたしたちの中へとまかれ、わたしたちの中で成長し、拡大し、円熟して、ついには完全な収穫、すなわち、王国の実現に至ります——マルコ 4:26-29. マタイ 13:43 :

1. 神の王国とは、実は種としての神・人イエス・キリストであり、彼は信者たちの中へとまかれ、一つの領域へと発展し、神の王国となり、そこで神は神聖な命の中で支配されます——ルカ 17:20-21. マルコ 4:3, 26-29 :
 - a. 主イエスは三一の神の具体化であり、彼が来たのは王国の種としてのご自身を神の選ばれた民の中へとまくことによって神の王国となるためでした——コロサイ 2:9. ルカ 17:20-21. マタイ 13:3-23。
 - b. キリストが王国を建て上げるのは、ご自身を命の種として信じる人たちの中へとまいて、王国を成長させることによってです。これは完全に命における成長の事柄であって、わたしたちの働きの事柄ではありません—— I ペテロ 1:23. I ヨハネ 3:9. マタイ 13:3。
 - c. 再生は神の王国へと入ることであり、信者たちの内側の神聖な命の成長は神の王国が発展することです——ヨハネ 3:3, 5. II ペテロ 1:3-11. ダニエル 2:35, 44. 啓 11:15。
2. この種は信者たちの中へとまかれた後、彼らの内側で成長し発展して、神の王国となります。それは、神の永遠の定められた御旨の完成のためであり、また彼らの祝福と享受のためです——コロサイ 1:13。

B. 石が増し加わって大きな山となることは、キリストが彼の行政において増し加わって神の王国となることを表徴しています。召会は命におけるキリストの増し加わりですが、神の永遠の王国は行政におけるキリストの増し加わりです。このゆえに、キリストは召会であるだけでなく、王国でもあるのです——ダニエル 2:35, 44. ヨハネ 3:29-30. I コリント 12:12. マルコ

4:26-29. ルカ 17:21。

C. キリストの来臨は、神の永遠の王国の開始となります。このゆえに、キリストの来臨は、人類の政権を終わらせ、神の永遠の王国をもたらすランドマークとなります——啓 11:15 :

1. 神のエコノミーにおいて、キリストは来たるべき出現によって、人類の政権の集大成を打ち砕き、粉々にし、神の永遠の王国を建て上げます——ダニエル 2:34-35。
2. 大きな人の像が大きな山で置き換えられることは、神の永遠の王国が全地を満たすことを表徴しています。これは、キリストが来て人類の政権の集大成を打ち砕いた後、神の永遠の王国を地上にもたらしすことを意味します—— 44-45 節。
3. 人類の歴史の中の神聖な歴史の目標は、打ち砕く石としての団体のキリスト（勝利者を伴うキリスト）を得て、それが彼の時代の器となって、この時代を終わらせ、大きな山、すなわち神の王国となることです—— 28, 31-45 節. 啓 12:1-2, 5, 10-11. 14:1-5. 19:7-21。
4. 召会時代の間、キリストはからだである召会を建造して、彼の花嫁としつつあります。彼は勝利を得た花嫁と共に打つ石として戻って来て、人類の政権の集大成を打ち砕き、神が全地を支配する時代をもたらします——マタイ 16:18. ダニエル 2:34-35, 44-45. 啓 11:15-17。